

2013年2月期（2012年度） 第3四半期 決算補足資料

1. 2013年2月期(2012年度)第3四半期
連結決算概要

2013年2月期(2012年度)第3四半期連結業績ハイライト

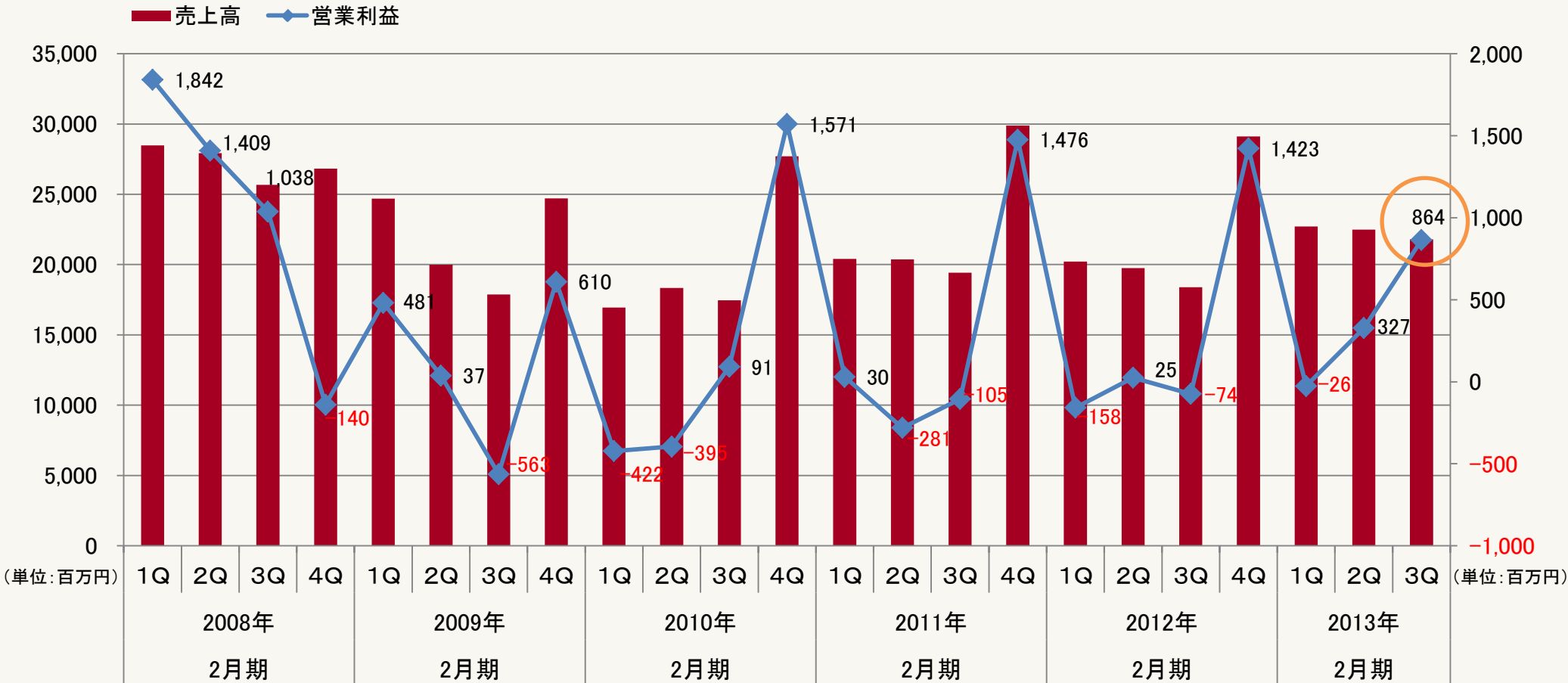
- ◆ 都内の大型商業施設の開業などにより、前年同期に比べ大幅な増収となった
- ◆ 売上の増加と原価率の改善により、前年同期の損失から利益に転じた

<第3四半期>	2012年2月期 (2011年度)	2013年2月期 (2012年度)	前年同期比 増減額(率)
売上高	58,356	66,987	8,631 (14.8%)
営業利益	△207	1,165	1,372 (—)
当期純利益	△331	533	864 (—)

(単位:百万円)

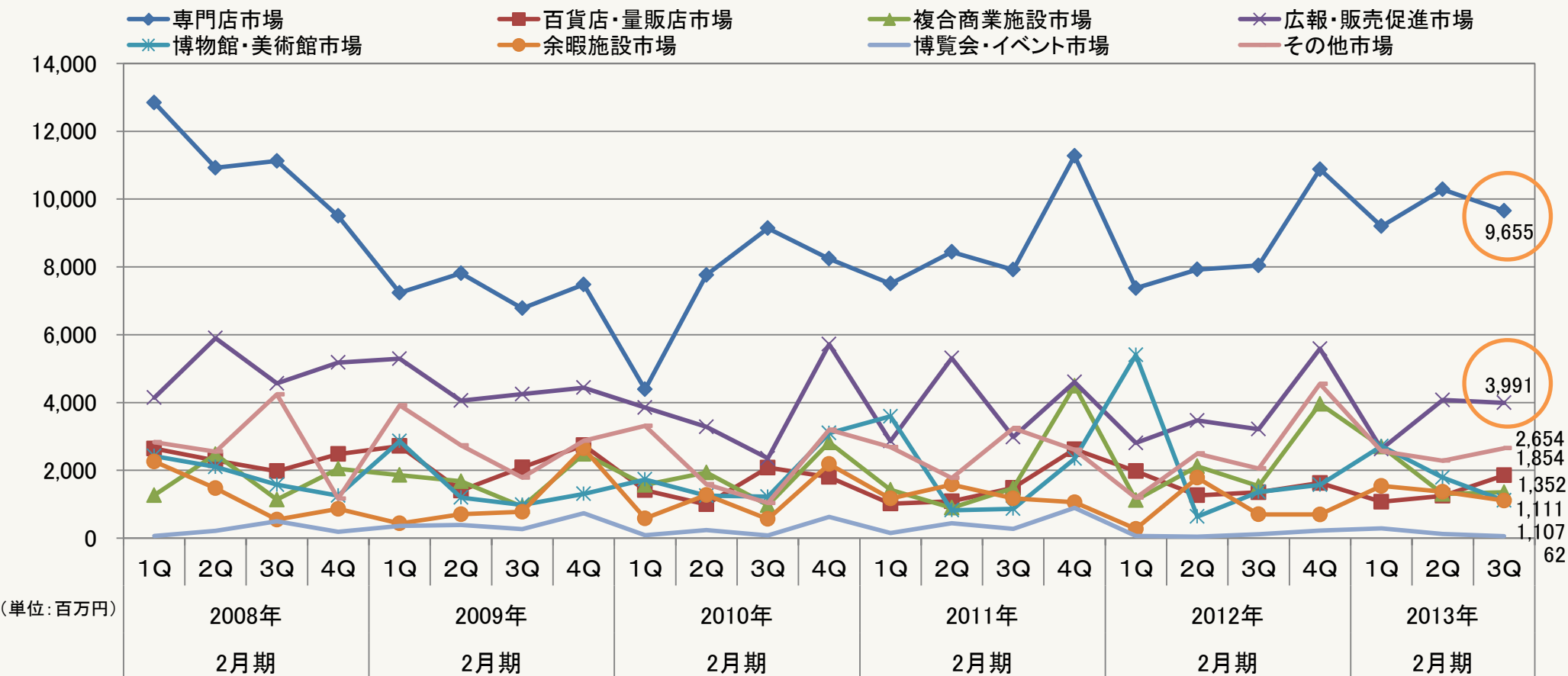
売上高・営業利益の四半期推移

- 売上高は、上期同様に商業施設分野の伸長により、高い水準となった
- 営業利益は、売上高の増加にともなう総利益の増加、および堅調なグループ会社業績により改善した



市場分野別売上高の四半期推移

- ◆ 専門店市場の売上高は、大都市圏の大型商業施設に出店する店舗需要により高い水準で推移した
- ◆ 住宅関連企業のショールームや秋の展示会に加え、企業オフィス、ホテルなどの新装・改装により、広報・販売促進市場、その他市場が堅調に推移した



(注)不動産事業と飲食・物販事業はその他市場に含み、掲載しています。

市場分野別の状況

- 都内の大型商業施設の開業、主要都市の複合商業施設の改装などにより、専門店市場、複合商業施設市場、その他市場が大幅に増加した
- 博物館・美術館市場は、前年同期に大型案件の完工があり減少し、余暇施設市場、その他市場は大型案件の売上計上により増加した

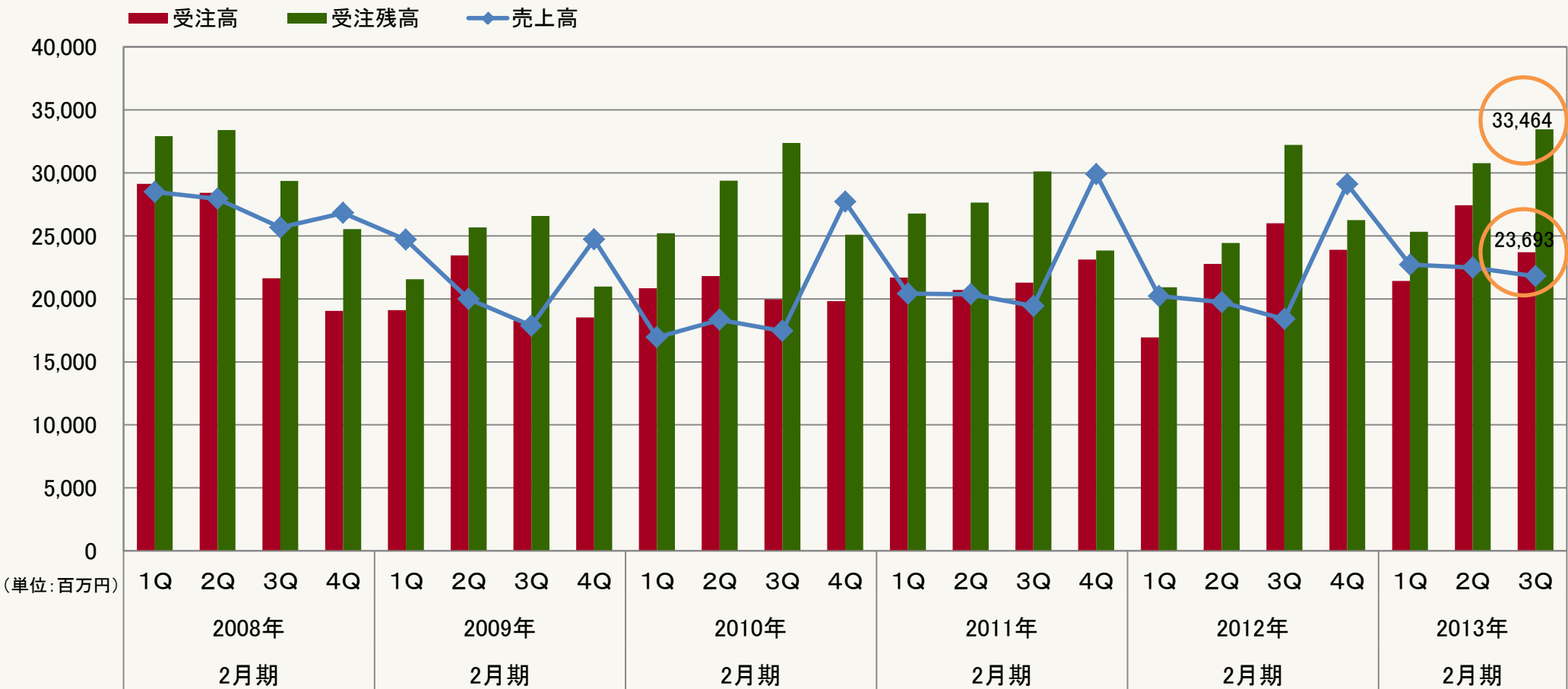
<第3四半期>

	2012年2月期		2013年2月期		売上構成率		ポイント
	売上高	前年同期比	売上高	前年同期比	前期	当期	
専門店市場	23,342	△2.2%	29,141	24.8%	40.0%	43.5%	大型商業施設や百貨店に出店するアパレル店舗や飲食店のほか、金融店舗などの新装・改装を手掛けた
百貨店・量販店市場	4,593	28.0%	4,177	△9.1%	7.9%	6.2%	東京、名古屋などの主要都市の百貨店の改装を手掛けたが、大型案件がなく減収となった
複合商業施設市場	4,779	25.7%	5,355	12.0%	8.2%	8.0%	駅周辺の大型商業施設の新装・改装に加え、空港・バスセンター・高速道路のSA・PAの商業施設部分の需要が増加した
広報・販売促進市場	9,496	△14.9%	10,695	12.6%	16.3%	16.0%	住宅関連、エネルギー、食品、家電メーカーのショールーム、企業PR施設、展示会を多数手掛けた
博物館・美術館市場	7,408	40.1%	5,613	△24.2%	12.7%	8.4%	高志の国 文学館、かわさき宙と緑の科学館などを手掛けたが、前年同期に名古屋で大型科学館の完工があり減収となった
余暇施設市場	2,761	△29.7%	4,018	45.5%	4.7%	6.0%	温浴施設、アミューズメントの大型案件のほか、ホテル、水族館、託児所など幅広い分野で需要が増加した
博覧会・イベント市場	232	△73.4%	477	105.7%	0.4%	0.7%	姫路城の公開施設運営、農林水産省などの公共イベントを手掛け増収となった
その他市場	4,320	△29.9%	5,840	35.2%	7.4%	8.7%	企業オフィス、空港ラウンジ、学校、ブライダル施設、企業の株主総会などの展示、環境演出を手掛け増収となった
ディスプレイ事業 小計	56,936	△3.0%	65,319	14.7%	97.6%	97.5%	
不動産事業	352	△5.3%	349	△0.7%	0.6%	0.5%	所有する商業・オフィスビルの賃料収入によるもの
飲食・物販事業	1,068	△8.8%	1,318	23.5%	1.8%	2.0%	博物館のミュージアムショップや駅ビルなどの商業施設の飲食・物販店舗の運営、東京ソラマチにも出店し、増収となった
合計	58,356	△3.1%	66,987	14.8%	100.0%	100.0%	

(単位:百万円)

受注高・受注残高の四半期推移

- 受注高は、第2四半期に比べ大型案件の受注が少なかったため減少した
- 受注残高は、商業施設分野、広報・販売促進分野で大型案件の売上計上があったが、専門店市場や複合商業施設市場、余暇施設市場が伸び、330億円を超える高水準を確保した



市場分野別の受注高・受注残高

- 受注高は、大型商業施設への出店にともなう専門店の受注に加え、金融店舗を数多く受注した専門店市場が増加し、広報・販売促進市場の大型ショールーム、余暇施設市場の温浴施設、アミューズメント施設、ホテルなどにより前年同期に比べ大幅に増加した
- 受注残高は、アパレル・物販の大型店舗、主要駅周辺の商業施設、百貨店の改装、住宅関連の大型ショールーム、ホテルの新装などが今後に控えており、前年同期を上回る水準を確保している

<第3四半期>	2012年2月期		2013年2月期		受注高 前年同期比 増減額(率)		受注残高 前年同期比 増減額(率)	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高				
専門店市場	26,648	8,052	30,396	8,933	3,747	14.1%	880	10.9%
百貨店・量販店市場	5,257	1,491	5,712	2,274	454	8.6%	782	52.5%
複合商業施設市場	5,082	5,556	5,800	3,881	718	14.1%	△1,674	△30.1%
広報・販売促進市場	11,887	5,726	12,096	4,941	208	1.8%	△785	△13.7%
博物館・美術館市場	5,287	4,279	5,379	3,420	92	1.8%	△858	△20.1%
余暇施設市場	3,301	1,579	6,497	4,469	3,196	96.8%	2,890	183.0%
博覧会・イベント市場	379	294	610	507	231	60.9%	213	72.5%
その他市場	7,476	5,243	6,045	5,035	△1,431	△19.1%	△208	△4.0%
合計	65,321	32,223	72,539	33,464	7,217	11.0%	1,240	3.9%

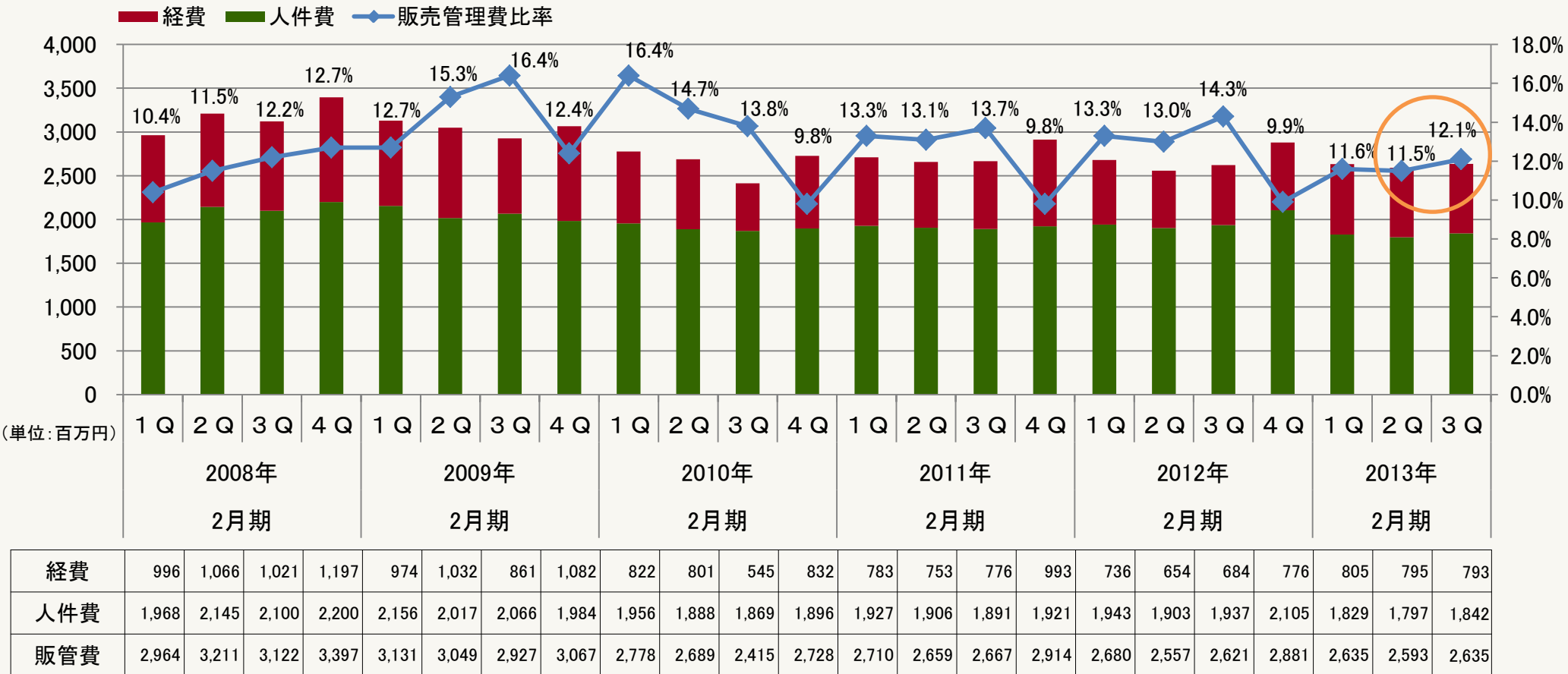
(単位:百万円)

(注)不動産事業と飲食・物販事業は受注概念が異なるため、記載していません。

販売管理費の四半期推移

➡ 売上高の増加により販売管理費比率は、前年同期に比べ低下した

➡ 経費の増加は、120周年記念事業および決算期変更にとまなうシステム変更などによるもの



(単位: 百万円)

連結損益計算書

<第3四半期>	2012年2月期	2013年2月期	前年同期比 増減額(率)		ポイント
売上高	58,356	66,987	8,631	14.8%	大型商業施設への出店意欲の旺盛な専門店市場において前年同期に比べ約58億円増加したことに加え、余暇施設市場、その他市場の需要増加により大幅な増収となった
売上総利益(率)	7,652(13.1%)	9,029(13.5%)	1,377	18.0%	売上の増加により総利益が増加し、原価低減により総利益率が0.4%向上した
販売管理費(率)	7,859(13.5%)	7,864(11.8%)	4	0.1%	120周年記念にともなう費用計上があったが、人件費を抑制し、販売管理費は前年同期とほぼ同等になった
営業利益(率)	△207(△0.4%)	1,165(1.7%)	1,372	—	売上の増加による総利益の増加、堅調なグループ会社の業績により前年同期に比べ大幅な増益となった
経常利益(率)	△150(△0.3%)	1,268(1.9%)	1,419	—	
特別利益	309	0	△308	△100.0%	前年同期は保険金受取などによるもの
特別損失	468	154	△313	△66.9%	株式市場の低迷により保有株式について投資有価証券評価損を計上した 子会社の保有不動産売却にともなう土地整備費の計上、前年同期は震災関連費用、役員退職慰労金、過年度給与手当などがあった
当期純利益(率)	△331(△0.6%)	533(0.8%)	864	—	

(単位: 百万円)

連結貸借対照表

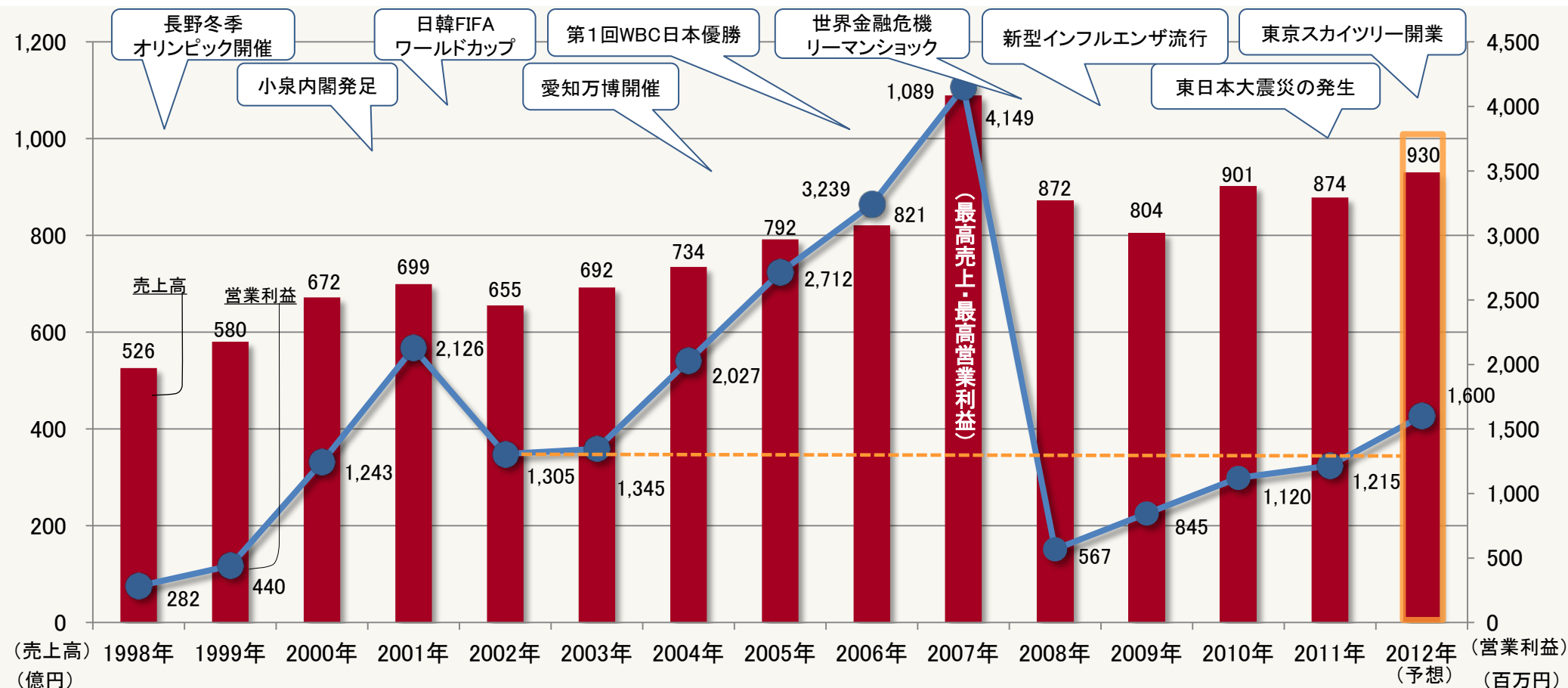
		2012年2月期	2013年2月期 第3四半期	前期末比 増減額(率)		ポイント
資 産	流動資産	31,398	31,816	417	1.3%	流動資産は、債権の回収により現金及び預金が増加し、受取手形及び売掛金が大幅に減少したが、受注残高の増加によりたな卸資産が増加したことによって前期末に比べ増加となった
	固定資産	22,946	22,651	△294	△1.3%	固定資産は、投資有価証券の取得などがあったが、大きな設備投資等はなく、減価償却の実施などにより減少した
	資産合計	54,344	54,468	123	0.2%	
負 債 ・ 純 資 産	流動負債	23,601	23,485	△115	△0.5%	流動負債は、受注残高の増加により前受金が増加したが、手元資金が充実したことによる短期借入の返済、期末月の仕入の減少にともなう買掛金の減少により、若干の減少となった
	固定負債	5,860	5,975	114	2.0%	固定負債は、リース物件の増加などにより増加した
	負債合計	29,461	29,461	△0	△0.0%	
	純資産	24,883	25,006	123	0.5%	純資産は、配当金の支払いがあったが、四半期純利益の増加により利益剰余金が増加した
	負債純資産合計	54,344	54,468	123	0.2%	

(単位: 百万円)

2. 2013年2月期(2012年度) 業績予想

通期業績の推移

業績はリーマンショック以降の下降局面から回復基調、今期4期連続の増益を目指す



(注)実際の業績は上記の業績予想と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

2013年2月期(2012年度) 連結業績予想

- ◆ 国際財務報告基準 (IFRS) への対応のため決算期を変更
- ◆ 今期目標 = 中期経営計画の目標数値 + 決算期変更影響額

	2012年2月期(実績)	2013年2月期(予想)	中期経営計画の 目標数値
売上高	87,464	93,000	95,000
営業利益	1,215	1,600	2,500
経常利益	1,325	1,700	
当期純利益	604	940	
一株当り配当金	8円	8円	
配当性向	73.9%	47.5%	

決算期の変更が要因

決算日：2月15日から2月末日へ
今期は12.5ヵ月決算を実施

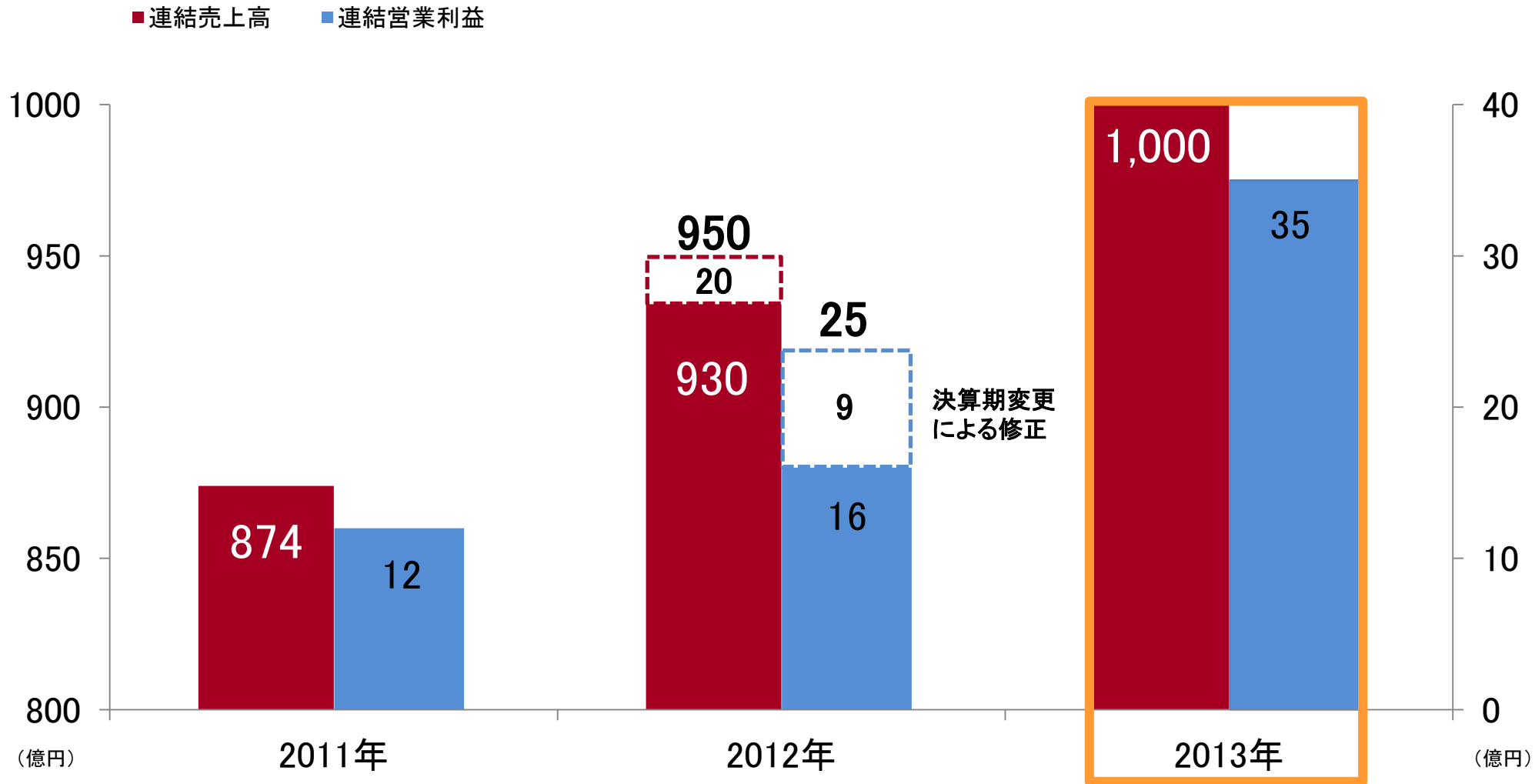
15日分の人件費・経費
+

1ヵ月分の減価償却費・賃料など

(単位: 百万円)

(注) 実際の業績は上記の業績予想と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

中期経営計画3カ年の実績と業績目標



(注)実際の業績は上記の業績予想と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。